

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：国際教育・協力センター	担当部局：国際教育・協力センター
大項目	7 国際交流 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。	
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性	
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）	
小項目	7.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 海外協定大学を2013年度末に150大学に拡大し、世界の多くの地域・国から交換留学生250人を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。	→海外協定大学数および受入交換留学生。	C	B	B	/	/
2. 海外からの推薦入試など入試制度を改革し、学部、大学院において2013年度末に定員の3% (713人) の外国人留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。そのために、宿舎提供システム整備、ワンストップサービスの提供と奨学金制度を整備する。	→外国人留学生数、宿舎提供数、外国人留学生へのサービス部門の整備および奨学金制度改革の有無。	B	B	B	/	/
3. 英語による授業のみで卒業・修了できるコースを学部、大学院にそれぞれ1コース以上設置し、世界に開かれた大学を実現する。	→英語による授業のみで卒業・修了できるコースを提供する学部、大学院数。	C	B	A	/	/
4. ダブルディグリー制度を2013年度末までに3学部、5大学院に拡充し、世界の大学との教育・研究連携強化を実現する。	→ダブルディグリー制度を有する学部、大学院数。	C	C	B	/	/
5. 海外拠点として2013年度末までに3箇所以上設置し、海外との連携交流ネットワークを構築する。	→海外拠点数。	B	B	B	/	/
6. 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムを2012年度末までに構築し、国連および国際機関等の法人との連携強化を実現する。	→国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムの構築の有無。	C	C	C	/	/
7. 海外への学生派遣プログラムを拡充し、2013年度末までに900人の学生を派遣する。	→海外への派遣学生数。	C	B	B	/	/
8. 海外客員教員制度を改革し、2012年度から新制度による外国人教員の受入を2009年度比50%増とし、教育のグローバル化と国際間での共同研究を推進する。	→客員教授制度を改革の有無と客員教授受入数。	D	C	B	/	/
9. 教員の国際化を推進し、2013年度には外国人教員比率を全体の12%以上とする。	→外国人教員比率	A	A	A	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
→	→	/	/	/	/	/
→	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	海外協定大学数は2011年4月末現在、135大学・組織となっており、順調に推移している。ただし、交換留学生の受入については、東日本大震災、原発事故、円高の影響により、伸び率が大きく低下した（2010年度137名、2011年度140名）。
目標2	外国人留学生は2012年4月末現在586人（学部・大学院）と昨年度より50人増加した。外国人留学生奨学金制度については、2011年度に改革し、入学前の採用が可能となった。宿舎は第3の寮として、西宮北口周辺に6室確保した。
目標3	学部は2011年度から国際学部が英語による受け入れを実施しており、理工学研究科が2012年度秋学期から英語によるコースの設置を決定した。
目標4	学部は社会学部と国際学部が制度を設置し、商学部が交渉中となっている。大学院については、理工学研究科および言語コミュニケーション文化研究科が導入している。
目標5	2009年度に吉林大学内とトロント大学内に設置し、2011年度より国際教育・協力センターの職員をトロントのオフィスに派遣した。他の拠点については、引き続き検討中である。
目標6	国連学生ボランティアについては、国連ボランティア計画（UNV）がプログラムの見直しを検討しており、同プログラムが一新され、新しいプログラムが設置される予定であり、現在、その動向について情報収集を行うとともに、新しいプログラムに関与するためにUNVに積極的に働きかけている。
目標7	2011年度は交換留学、中期留学、外国語研修、セミナー等で約800名の学生を派遣し、順調に進捗している。2011年度に世界展開力強化事業に採択され、今後その事業による派遣者も期待できる。
目標8	海外客員教員制度については、2013年度（1年遅れ）の改革となり、新たな制度では英語による全学科目での授業提供を目的とした協定校枠を設けており、本学の国際化に貢献することができる。招聘人数については、学部・研究科等に依るところが大きい。
目標9	外国人教員比率については、順調に上がってきており、2011年度は13%に達した。
備考	

《評価指標データ》

（特定項目データ）本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	2012	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	69	71	77	97	118	128	・5/1現在 ・2009年度データに産業研究所1、言語教育研究センター3含む。	
指標2	国際交流協定締結国数		国	21	22	25	27	32	33	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	19	16	17	25	29		累計数(学部+センター等)	
		外国人留学生	正規	人	339	329	338	377	413	457	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	81	104	94	125	127		・累計数(学部+センター等) ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.8	1.7	1.7	1.8	1.9	2.0	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	18	27	8	18	12					
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	15	11	12	11	18		累計数(学部+センター等)	
		人数	長期	人	159	148	142	164	376		・累計数(学部+センター等) ・1学期以上を「長期」
			短期	人	249	237	284	282	392		・累計数(学部+センター等) ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.9	0.8	0.7	0.8	1.8		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	1.4	1.3	1.4	1.3	1.9		
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	7	1	5	6	1	・累計数(学部+センター等) ・1年間以上を「長期」	
指標6	海外への派遣教員数		短期	人	14	16	13	18	19	・累計数(学部+センター等) ・1年間未満を「短期」	
			長期	人	9	8	12	12	11	・累計数(学部+センター等) ・1年間以上を「長期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		短期	人	353	468	434	673	635	・累計数(学部+センター等) ・1年間未満を「短期」	
			長期	人	10	6	4	6	6	・累計数(学部のみ) ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%			10.2	12.5	13.7	13.9	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)